

令和6年度

第5回 有玉小学校運営協議会



【1月21日 1年生昔の遊び】



【投てき板塗り直し】

浜松市立有玉小学校
令和7年2月18日（火）

次 第

- | | | |
|-----|----------------------|-------------|
| (1) | 会長・校長挨拶 | 10:00～10:05 |
| (2) | 会議録確認 | 10:05～10:08 |
| (3) | 議長選出 | 10:08～10:10 |
| (4) | 熟議 | 10:10～11:15 |
| | ○ 令和7年度有玉小学校教育方針について | |
| | ○ 学校評価、学校関係者評価を受けて | |
| | ○ 学校運営協議会自己評価について | |
| (5) | 連絡・報告 | 11:15～11:30 |
| | ○ 学校支援活動について | |
| | ○ P T Aより | |
| | ○ 夢育やらまいか事業について | |
| (6) | その他 | |
| | ・ 来年度の組織について（校長） | |
| | ・ 来年度の日程について（教頭） | |

今後の予定

R 7 第1回 5月 8日（木）10:00～11:30

※委員の皆様の御都合で、日程を変更する場合があります。

令和6年度

有玉小 学校運営協議会 委員名簿

(敬称略)

	氏 名	役 職
委 員	岩井 正次	積志地区自治会連合副会長
委 員	竹内 有徳	交通安全協会積志分会顧問
委 員	山本 恭子	積志地区民生委員児童委員協議会副会長
委 員	太田 克美	積志地区社会福祉協議会副会長
委 員	中村佐佳恵	主任児童委員
委 員	北出 勉	有玉小 P T A 顧問
委 員	高林 和行	有玉小 P T A 会長
委 員 学校支援コーディネーター	高林 愛子	有玉小元 P T A 副会長
校 長	飯島 美智子	
教 頭	上野 仁悟	
主幹教諭	古橋麻紀子	
C S 担当教員	平 章	
C S ディレクター	竹内 貴子	

オブザーバー・浜松市教育委員会

	氏 名	所 属
オブザーバー	小池 誠	積志協働センターCS 担当
浜松市教育委員会	牧野 知子	浜松市教育委員会総務課

令和6年度 第4回 有玉小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2024年12月13日（金） 13時15分から15時10分まで
- 2 開催場所 有玉小学校 図書室
- 3 出席委員 岩井 正次、竹内 有徳、山本 恭子、太田 克美、中村 佐佳恵
北出 勉、高林 和行、高林 愛子（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 飯島 美智子（校長）、上野 仁悟（教頭）、古橋 麻紀子（主幹教諭）
平 章（CS担当）、竹内 貴子（CSディレクター）

- 6 教育委員会 牧野 知子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 竹内 貴子
- 9 議長の選出

前回の協議会において、議長の選出について、北出委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

- 10 協議事項
- (1) 議長の選出について
- (2) 学校関係者評価について

11 会議記録

司会から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

- (1) 議長の指示により、校長からスライドと資料に基づき、学校の様子について報告があった。

- (2) 学校関係者評価について

議長の指示により、主幹教諭から、スライドと別紙資料に基づき、今年度の教育活動報告について説明があった。

- (3) 熟議（学校関係者評価について）

議長の指示により、各グループにて意見交換を行った。各グループからは、以下の発言があった。

【グループ①（岩井会長、山本委員、中村委員、校長）】

- ・アンケートの結果より、子供のよくできた、できたの割合が多く、自己肯定感が高い。一方、先生方の評価は低い。もう少し高く評価してもよいのではないかと感じる。
- ・お互いの考えを認め、褒め合うことも大事だが、批判もして、レジリエンス、立ち直る力を強くすることも大事。
- ・言葉づかいの悪さが気に掛かる。相手のことを思いやる言動を心掛けるよう働きかけたい。
- ・3分間ボランティアは、主体性を育むためにとっても良いと思う。指示をされてやるのではなく、自分で考えることが大切。

【グループ②（北出委員、太田委員、高林委員、主幹教諭）】

- ・学力は、小学校からの積み重ねで、勉強と向き合うことができていると思う。

- ・引き渡し訓練は、いろいろなパターンを身に付けられるよう改善されている。
- ・放課後の子供の遊び方について、外遊びが減っている。不審者が出るのが心配なため、大人の目があると安心。
- ・言葉づかいについて、子供たちが悪い言葉づかいをした時に、どう注意をするのが課題。

【グループ③（竹内委員、高林委員、CS担当、教頭）】

- ・自分の考えを伝えるために、発達段階に応じた学習が必要。
- ・本校は、一年生の様子を見ても、全体的に落ち着いた雰囲気だと感じる。一方で、幼から小、小から中というように、校種が変わる時の不応問題が社会問題としてあると思う。
- ・「ありがとう」と言える子が増えていると感じる。
- ・あいさつについて、どういう場でも、誰に対してもあいさつをする、という指導が必要。

【校長より】

具体的な御意見をいただいたので、学校の教育課程に生かしていきたい。令和7年度の学校経営のキーワードは、「一体的に」でいきたいと思う。「知・徳・体」どれかに偏ることなく、相互に関連し合う項目もあるかもしれない部分も含めて、一体的に育みたい。その中でも「徳」の部分では、子供たちに『レジリエンス（立ち直る力）』をつけさせたい。今年度は、『ペアレント・トレーニング』を行った。来年度も保護者を対象としたものをやっていきたいと思う。「体」について、安全意識が高まったので良かった。教員だけでは、できない部分をボランティアの方々や、学校運営協議会 みなさんに手助けしていただいている。働きやすさと働きがいバランス良く一体的に進めたいと思っている。ぜひ皆様のお力をいただきたい。

（4）学校支援活動について

学校支援活動について、学校支援コーディネーターより、これまでの活動と今後の予定について報告があった。

その他報告事項等

議長から、次回の議長選出について委員に意見を求めたところ、中村委員が次回の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。司会から、次回会議は、2025年2月18日（火）午前10時00分から11時30分の日程で開催する旨の報告があった。

令和7年度 有玉小学校グランドデザイン



校章：
玉をつつむ手、羽ばたく鳥
の2つの意味が込められている

学校教育目標

みがこう 自分・かがやこう 仲間と

第4次浜松市教育総合計画

～ 描く夢や未来の実現 ～

・自分らしさを大切にすること

・他者と協働し、主体的に行動できることも

・自己調整しながら、粘り強く取り組むことも

学校経営の理念

つながりの中で 互いに
認め合い 支え合い 磨き合い 高め合う

積志中校区めざす子供像

・学校や地域で場に応じたあいさつができる子

・より多くの人との人間関係を深めていことができる子

・家族と地域に感謝し、夢に向かって努力する子

合言葉

目指す子供の姿

自分らしさを大切にし、他者と協働し合い、粘り強く取り組む子

認め合う子 支え合う子 磨き合う子 高め合う子

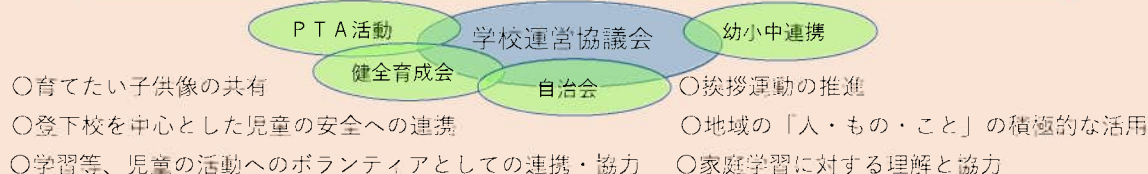
取組（P;計画、D;実践）

目指す子供像	知 確かな学力	徳 豊かな心	体 健やかな体
認め合い できた いいね	【自ら考え、学び合う子】 ◎表現力や思考力を身につけさせ、個別最適な学びや共同的な学びを通して自分の考えを広げ、伝えることができる子 □自分の考えを持つ	【自らかかわり認め合う子】 ◎振り返ったり、認め合ったりする場をふやり、自信をもって自分や友達のよいところを言える子 □自分のよさを知る	【自ら鍛え、高め合う子】 ◎心身の健康のために、運動や保健を通して、仲間と共に高め合い、進んで運動に親しんだり、健康や安全に気を付けて生活したりしようとする子
支え合い ありがとう	□自分の考えを分かりやすく伝える	□相手のよさを認め、助け合う	□いろいろな運動の楽しさを実感している
磨き合い やってみよう	□自分の考えを広げる	□よりよくするための方法を自分で考えて、実践する	□仲間と共に活動に取り組む
高め合い つなげよう	□学んだことを選んで使う	□よりよくする方法をみんなで共有し、生かす	□心身の健康を育む
	【自ら考え、学び合う子】 90%	【自らかかわり、認め合う子】 100%	【自ら鍛え、高め合う子】 90%

評価（C;振返、A;改善）

発達支援教育の理念に基づいた児童理解と支援

有玉小コミュニティスクール～家庭・地域と連携・協力し、共に歩む学校～



「チーム有玉」人づくり宣言（目指す学校の姿）

- 知・徳・体のバランスのとれた『未来の創り手』を育むことを目指します。
- 子供が自分らしく力を伸ばすことのできる学校・学級づくりを進めます
- 「すべての子供を、すべての職員で」支援や指導を進めます
- 互いに励まし合い、働きやすさと働きがいのある職員集団を目指します





令和7年度 有玉小学校 学校経営構想

1 はじめに

現代社会は「VUCA」時代※と言われ、これは社会やビジネスにとって未来の予測が難しくなる状況のことを意味している。言い換えると、現代は変化のスピードが速く、子供たちの安心や安全の保障はより難しい状況になっているといえる。そのような中、コロナ禍も経て、あらためて教育の「不易と流行」とは何なのかが問われており、この問いを追求し続けることは、学校教育の存在価値の追求につながると考える。

本校では、これまで子供を中心に据えた教育、日々安定した教育活動が展開され、落ち着いた雰囲気の中で学習を進めることができている。そのベースを大切にしながら、人とののかかわりの中で主体性を磨き、自分を高め、仲間と励まし合い粘り強く努力することのできる人づくりを進めていく。

※VUCA時代…Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語

2 『第4次浜松市教育総合振興計画』（令和7年度～令和16年度）

教育理念

『描く夢や未来の実現』

主体性：物事を自分事としてとらえ、目前の課題の解決や、描く未来の実現に向けて粘り強く取り組む

多様性・包摂性：一人一人の自分らしさを認め、互いを尊重しあいながら、誰もが活躍できる環境を実現していく。

信頼・協働：それぞれの立場の人が人や組織に信頼を置き、協働したり、相互に作用したりして、よりよい関係性を構築していく。

目指すこどもの姿

- 自分らしさを大切にすることも
- 他者と協働し、主体的に行動できるこども
- 自己調整しながら、粘り強く取り組むこども

目指す教職員の姿

- こどもの自分らしさを受け止める教職員
- 愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
- 専門性と指導力を磨き続ける教職員



第4次浜松市教育総合計画 計画の体系

キーワード：しなやかに生き抜く 知・徳・体 グローカル人材 未来の創り手

① 「未来の創り手に求められる力の育成」（方針1：自分や浜松の未来を創る人づくり）

VUCA時代をたくましく、しなやかに生き抜く力を育むために、市は求められる力として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心身」を上位に挙げている。これまでの日本型教育のいわゆる「不易」としての「知・徳・体」一体型教育をあらためて大切にしてい

くことを意味している。次に挙げているのは「グローバル人材※の育成」「情報活用能力の育成」である。令和6年度は、令和4・5年度の2年間の市教育研究指定による研究の成果を生かし、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した授業改善をさらに進めたことにより、子供たちは自分の考えを持ち、主体的に学ぶことができた。また、学び方を選び、課題解決に生かすこともできたといった成果も得られた。さらに、主体的な家庭学習の在り方も模索してきた。このように本校で続けてきた授業改善を一層進める中で、『未来の創り手』を育成していきたい。

※グローバル人材…グローバルとローカル合わせた造語。グローバルな視点、経験を持っており、地域社会や経済の活性化、持続的発展に貢献する人材のこと

キーワード：困り感 子供の幸せ 支援体制 未然防止 報告・連絡・相談

② 「多様なニーズに対応した学びや支援の充実」(方針1：自分や浜松の未来を創る人づくり)

時代の変化とともに、子供たちや保護者のニーズが多様化してきている。これらに対応した学びや支援の充実が求められているが、中心にあるのは『子供の幸せ』であることを常に念頭に置きたい。そのためには、一人一人の子供の困り感に寄り添う支援が第一であり、このことを保護者と共有して支援を進めていくことを基本姿勢としたい。また、学校だけで解決しようとするのではなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他外部機関と連携したきめの細かい支援体制をつくっていく。こうした体制は、生徒指導におけるいじめ等問題行動の未然防止にもつながると考える。さらに、教職員間の報告・連絡・相談を密にし、先手の指導、支援を心掛けたい。

こうしたきめ細かな指導・支援には発達支援教育の理念に基づいた児童理解が欠かせない。発達支援学級及び通常学級の全ての子供を対象とした発達の特性への理解を深め、その子の困り感に寄り添う対応を教職員全体で行っていくことを最重要視したい。

3 令和7年度学校経営方針

学校教育目標

みがこう自分・かがやこう仲間と

目指す子供像

確かな学力…自ら考え、学び合う子
豊かな心…自らかかわり、認め合う子
健やかな体…自ら鍛え、高め合う子

目指す学校の姿

- 子供が自分らしく学び合う学校～子供と教職員、子供同士の安定した人間関係づくり～
- 教職員が互いを尊重し合い、高め合う学校～働きやすさと働きがいのある教職員集団づくり～
- 家庭・地域と信頼し合う学校～学校と保護者、学校と地域との信頼関係づくり～





本校は昭和54年に積志小学校から分離した学校で、令和7年度は創立47年を迎える。従来この地区に住んでいた住民と宅地化により新しく移り住んできた住民が混在する地域である。コロナ禍を経て、地域の祭り等の催し物も復活し、その結束力を強めている。保護者や地域の学校への理解はあり、一方で期待も大きい地域である。令和4年度からスタートした学校運営協議会（コミュニティスクール）も4年目（第2期）を迎え、学校支援活動（ボランティア活動）等軌道に乗った活動が行えている。子供たちは素直で明るく、伸び伸びとしている。他者に対しても寛容であり、「おはよう」「ありがとう」などの挨拶も気持ちよくすることができる。一方、決められたことには一生けん命に取り組めるが、自信のなさや挑戦する気持ちにやや欠けるといった傾向も見られる。

以上のような実態を踏まえ、学校教育目標を「みがこう自分 かがやこう仲間と」とする。この目標の具現化として、自分の考え（自分らしさ）を大切にし、他者と協働し合い、粘り強く取り組む子を目指す子供の姿とし、令和7年度の教育活動を進めていくこととする。

4 令和7年度教育課程編成上の着眼点

着眼点①：知・徳・体を一体的に育む

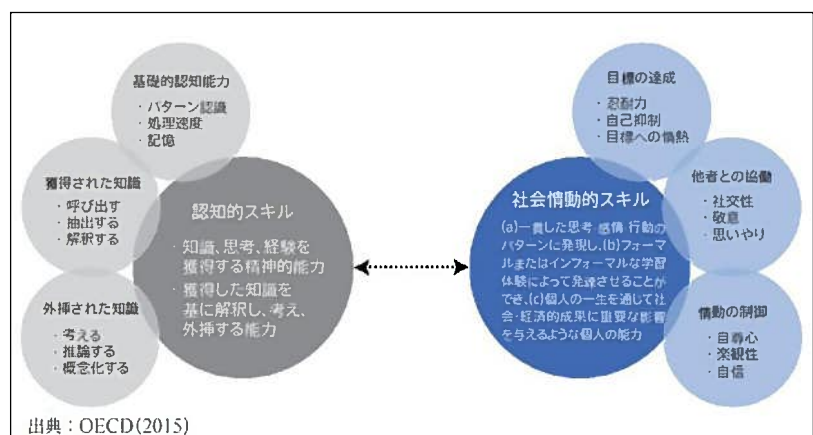
新しい教育総合計画では、「多様性・包摂性」が基本理念の具体の一つとなっている。一人一人の自分らしさを認め、互いを尊重し合いながら、誰もが活躍できる環境を実現していくためには、知・徳・体を一体的に育む日本型学校教育の重要性についてあらためて考えることがかぎとなると考える。

「知」：確かな学力の育成を目指して、授業改善を進める

「徳」：VUCA時代をしなやかに生き抜く力※を育む

「体」：自分の体と安全について知り、自らを鍛える力を育む

※（その一つとして）社会情動的スキル
…OECD（経済協力開発機構）の
ラーニングコンパス（学びの羅針
盤）2030により示されたスキ
ル。認知的スキルと社会情動的スキル



着眼点②：「令和の日本型教育」を担う教師及び教職員集団の実現

着眼点①で挙げた知・徳・体にわたる全人的な日本型学校教育を進めていくにあたり、現在の学校現場を見つめ直す必要がある。近年、学校が対応する課題は複雑化しており、保護者や地域からの期待も高く、負担は増しているのが実態であり、教師を取り巻く環境整備は喫緊の課題である。長時間労働の解消を図り、日々の生活の質や教職員人生を豊かにすること、及び教師一人一人が意欲と能力を最大限発揮できる環境を整備することが、教師がその高い専門性を発揮し、子供たちにより良い教育を行うことにつながる。

そこで、働き方改革と学校の指導・運営体制の充実を一体的に取り組み、いわゆる「働きやすさ」と「働きがい」のある職員集団を目指していく。



出典：全連小徳島大会文科省講話資料

「チーム有玉」人づくり宣言（目指す学校の姿）

- 知・徳・体のバランスのとれた『未来の創り手』を育むことを目指します
- 子供が自分らしく力を伸ばすことのできる学校・学級づくりを進めます
- 「すべての子供を、すべての職員で」支援や指導を進めます
- 互いに励まし合い、働きやすさと働きがいのある職員集団を目指します《グランドデザインより》

【確かな学力】「自ら考え、学び合う子」の育成

「できた」・「ありがとう」・「やってみよう」・「つなげよう」

◎ 表現力や思考力を身につけさせ、個別最適な学びや協働的な学びを通して自分の考えを広げ、伝えることができる子を育てる。

《数値目標：90%》

【よさを見つける力】

○ 自分の考えを持つ

- ・主体的に取り組むための、教材の出会い方の工夫
- ・多様な手立ての工夫

（具体物操作、絵や図、ヒントカード、ICT端末の利用など）

【仲間と関わる力】

○ 自分の考えを分かりやすく伝える

- ・立場を明確にし、理由を付した説明力の育成
 - ・自分の考えを伝えるための資料の作成能力の育成
- （ノート、写真、動画、プレゼンテーション等）

【挑戦する力】

○ 自分の考えを広げる

〈教材との対話、自分との対話、人（教師・友達）との対話を通して〉

- ・考える視点の明確化（発問の工夫、視点の提示）
- ・考えを再構築させる場面の設定（共有、比較、納得、反対、融合）

【未来につなげる力】

○ 学んだことを選んで使う

- ・「学び方を学ぶ」経験を積み重ね、既習事項を活用する場面の設定
- ・主体的に取り組む、自力解決や、自己調整できる場の設定
- ・自分で課題や内容を決めて取り組む、家庭学習の充実

ICTの活用・単元計画の工夫・振り返りカードの活用

自己調整力

【豊かな心】「自らかかわり、認め合う子」の育成

「できた」・「ありがとう」・「やってみよう」

- ◎ 振り返ったり、認め合ったりする場をふやし、自信をもって自分や友達のよいところを言える子を育てる。

《数値目標：１００％》

【よさを見つける力】

○ 自分のよさを知る

- ・「ありがとうカード」の実施（子供と子供、家庭と子供が認め合う）
- ・友達のよさを見つける活動（ありがとうの日、心の日）
- ・自分を見つめ、自分のよさに気付く場の設定
(ありがとうの日、心の日、学級活動、道徳科等)

【仲間と関わる力】

○ 相手のよさを認め、助け合う

- ・毎日の振り返りの会における「ありがとうタイム」の実施
- ・「ふわふわ言葉」強化月間（週間）等の実施
- ・「ふれ合いデー」の設定（家庭でのふれ合い、教師と子供・子供同士のふれ合い）

【挑戦する力】

○ よりよくするための方法を自分で考えて、実践する

- ・ボランティア清掃と振り返りの場を設定（ありがとうの日清掃時間）

【未来につなげる力】

○ よりよくする方法をみんなで共有し、生かす

- ・「ありがとうの日」を実施し、「ありがとう」あふれる学校にする
- ・学校をよりよくする活動を児童が主体となって取り組むよう支援する

児童が主体的に取り組めるよう支援

目指す 子供像	【健やかな体】「自ら鍛え、高め合う子」の育成
育てたい資質や能力と具体策	「できた」・「ありがとう」・「やってみよう」・「つなげよう」 ◎ 心身の健康のために、運動や保健を通して、仲間と共に高め合い、進んで運動に親しんだり、健康や安全に気を付けて生活したりしようとする態度を育てる ≪数値目標 90%≫ 【よさを見つける力】 ○ いろいろな運動の楽しさを実感している。 ・学級の状況に応じて、ルールや場を工夫する ・個に応じためあてを持ち、楽しく、進んで運動に取り組む ・運動や遊びを通して、自分のよさに気づき、自分らしさを知る 【仲間と関わる力】 ○ 仲間と共に活動に取り組む ・仲間と共に1つの目標に向かって運動する機会を設ける ・ペアやグループを効果的に活用し、見合いや教え合いの活動を意図的に設定する（体力アップコンテスト） 【挑戦する力】 ○ 心身の健康を育む ・自分の心の状態の把握、対処方法や良好な対人関係を築くための方法（心の日、レジリエンスを高める）などを知り、日々の生活に生かせるようにする ・養護教諭や栄養教諭、外部機関と連携して、心身の発達や健康管理についての理解を深める 【未来につなげる力】 ○ 安全への意識を高める ・日々の生活において、校内、校外での安全に生活する能力を高める ・より実践的な避難訓練や交通教室等を通して、防災や安全に対する意識を高める 自身の体や心の健康に目を向け、調整する力を付ける

2025年 1月 活動報告

○ 1年生と昔の遊びを遊んでもらう。

2005年 1/21（火）3・4時間目に体育館。

2004年12/6（金）に地域の回覧で募集したが、問い合わせ無し。

有玉っ子公式LINEで募集し、9名のサポーターが参加。

○ 昼休みの見守り

1月中旬より、再開。

→転んで怪我をする子が増えている。大人の見守りは、大事だと感じる。

○ ひまわり学級の支援

2月は、火曜・木曜に授業のサポートをしていただいている。

○ 読み聞かせ トトロの会

昼休み 12時45分～12時55分 音楽室

2/13（木曜）1年生

2025年 2・3月 活動計画

○読み聞かせ トトロの会

昼休み 12時45分～12時55分 音楽室

2/25（火曜）2年生

3/4（火曜）3～6年生

○掲示板作成ボランティア

2月下旬～3月。春バージョンを作成予定。

○2024年度のボランティア活動の一覧を制作。

→次年度の授業に活かすため。

（先生がサポーターを必要な時に活用しやすくするため）

○2025年度 4月からのボランティア計画を学校と打ち合わせ。

→2024年度は、入学式後の朝の登校後、新1年生の下駄箱周りの見守りと、新1年生の集団下校（学校から、各下校コースで先生と一緒に、帰ってもらう）サポーターを募集した。

○2025年度の有玉っ子サポーター募集について

新規の方も全校の保護者に募集したいので、打ち合わせをしたい。